



2018 年 7 月 2 日

BMW Team Studie が初優勝
Blancpain GT シリーズ・アジア Rd.5 で 81 号車が 1 位、82 号車も 3 位フィニッシュで初のダブル表彰台を獲得
BLANCPAIN GT SERIES Asia Rd.5 & 6 SUZUKA 2018

ビー・エム・ダブリュ株式会社(代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル)がサポートする BMW Team Studie が、6 月 30 日/7 月 1 日に鈴鹿サーキットで開催された Blancpain GT シリーズ・アジア Rd.5 & 6 に BMW M4 GT4 で参戦した。日本が舞台であり、全員の経験値が非常に高い鈴鹿サーキットでのラウンドだけに、チームは必勝を期してサーキット入りした。Rd.5 では、81 号車がトップでフィニッシュし、シリーズ初となる優勝を飾り、82 号車も 3 位フィニッシュで初のダブル表彰台を獲得した。

公式予選 Q1

81 号車は木下選手、82 号車は浦田選手が担当。計測 1 周目にじっくりタイヤを暖めると、計測 2 周目からアタックを開始した。その後もアタックを試みたが、タイミングが合わずセッション終了を待たずにマシンをピットへ戻した。一方、前のセッションでサスペンションを傷めた 82 号車は、セッションスタートから 5 分後に修理を完了した。浦田選手は即座にコースインすると、計測 2 周目にベストを記録し、7 番手タイムで Q1 を終えた。

公式予選 Q2

Q2 は 81 号車を砂子選手、82 号車をマックス選手がドライブした。砂子選手は 2 周目に 2:15.416 で、その時点の 1 番手タイムを記録。その後、ライバルがタイムを更新したが、チェッカー直前のラストアタックで 2:15.259 を記録し、トップタイムで Q1 を終えた。マックス選手は計測 1 周目に 4 番手タイムを記録し、5 番手で Q2 を終えた。

Rd.5 決勝

決勝は 81 号車が GT4 クラスの 2 番グリッドで、82 号車は最後尾 8 番グリッドからスタート。定刻どおり 14:20 にフォーメーションラップが開始され、セーフティカーがピットロードへ向かうとレースはスタートした。

フロント・ロースタートの木下選手は、スタート直後の 1 コーナーで先頭のマシンをオーバーテイクした。さらに、クラス違いの GT3 車両 2 台も処理し、1 周目のコントロールラインをクラストップで通過した。81 号車はその後もポジションを維持したが、周回遅れのマシンに前を塞がれペースを落とした。結果、ライバルにオーバーテイクを許し、11 周目に 2 番手ポジションでルーティンのピットへ向かった。

一方、接触に関するペナルティで最後尾スタートとなった浦田選手も素晴らしい走りを見せる。2 周目、3 周目、4 周目と立て続けにオーバーテイクし、5 番手まで上げたポジションを維持したまま、12 周目にボックスのコールを受けると、ピットへ向かい、マックス選手にマシンを委ねた。

砂子選手の 81 号車は、全てのマシンがピット作業を終えた時点で 1 番手ポジションに復帰。快調なペースをキープし、ラップタイムに勝るライバル AMG を寄せ付けない。82 号車マックス選手もスティント中盤にポジションを 1 つ上げ 4 番手に。砂子選手は、レース終盤タイヤとブレーキのドロップに苦しむも、ペースを維持。危なげない走りでチェッカーを受け、BMW Team Studie にとっての初勝利を手に入れた。

マックス選手の 82 号車は、レース終盤に前のマシンがピットストップペナルティを受けた事でポジションアップ。3 位でチェッカーを受け、初のダブル表彰台を獲得した。

Rd.6 決勝

前日の予選結果は砂子選手の 81 号車がトップ、マックス選手の 82 号車が 5 番手。ポールポジションとクラス 5 番グリッドの好位置からのスタートになった。

10:50 にフォーメーションラップが開始され、隊列を率いたセーフティカーがピットロードに向かうと、シグナルオールグリーンでレースがスタート。砂子選手はライバルを押さえ、トップでコントロールラインを通過。2 番手・3 番手の AMG と三つ巴のバトルがスタートしたが、直後にコースオフ車両が発生し、セーフティカーが導入された。

レースは 3 周目に再開した。前半は砂子選手・マックス選手ともにライバルの猛追を押さえ込み、ポジションをキープしながらレースをコントロールする展開になった。規定のピットタイミングが迫っていた 9 周目、シケインでクラッシュが発生。2 台の事故車両回収のため、再びセーフティカーが導入された。チームはピットインが可能になるピットウィンドウがオープンすると即座に砂子選手へピットインをコール。81 号車はライバルの AMG と同タイミングでピットへ戻ると、ドライバー交代と前戦の決勝 1 位に与えられる 15 秒のタイムハンデを消化。同じく 10 秒のタイムハンデを与えられていた AMG の後ろでコースへ戻った。マックス選手の 82 号車は 11 周目にピットイン。同じく前日の決勝結果に対して与えられた 5 秒のタイムハンデを消化すると、浦田選手のドライブでピットを後にした。しかし、この時セーフティカーがホームストレートに差し掛かりピットレーン出口は封鎖中。82 号車はこれによってポジションを落とし最後尾でコースへ復帰した。

12 周目にセーフティカーがピットロードへ向かい、レースは再開。2 番手ポジションでコースに復帰していた 81 号車だったが、セーフティカー中の混乱した他車のピットインに翻弄され、全車が規定のピットインを終えた時には、そのポジションを 6 番手まで落としてしまった。木下選手と浦田選手は、その後セーフティカー中にギャップが開いてしまった前のマシンを猛追。18 周目から 20 周目まで再びセーフティカーが導入されるも、4 番手・5 番手マシンを射程内に収め、残り 2 分で 1 台をオーバーテイク。ファイナルラップにももう一台をオーバーテイクして、木下選手は 4 位、浦田選手は 7 位でこのレースを終えた。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

「Blancpain GT シリーズ・アジア鈴鹿戦が終了しました。81 号車が優勝、82 号車は 2 戦連続の表彰台。これ以上はない素晴らしい結果です。アジア中を廻るレースですが、その中でもここ日本で勝利できた事に今はとても喜んでいきます。82 号車は前回 3 位だったことで、ピット

ストップが5秒長かったにも関わらず、今回も3位。本当に素晴らしい事だと思います。81号車の優勝に関しては、喜びよりもほっとしたというのが正直なところです。また、これまで4戦連勝のAMGをなんとしてもBMW M4 GT4で止めたかったので、それも果たせとても満足です。とは言え、明日もレースがあります。気を引き締めて勝てるように頑張りたいと思います。今日も応援有難うございました。」

「81号車が4位、82号車は7位。なかなか厳しい結果になってしまいました。今日は1時間のレース時間の中、3度もセーフティカーが入りました。走ってはセーフティカー、走ってはセーフティカーのコンディションでタイムハンデ分の15秒を取り戻す事が難しいレースでした。鈴鹿に来られた方も、ライブ配信で応援頂いた方も、今日のレースしか見られてない方には、大変申し訳ないレースだったと思います。皆さんと感動を分かち合える様、次戦のFUJIに気持ちを切り替えて臨みます。引き続き応援よろしくお願い致します。」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター:フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-18:00
BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)